

岡山プログラム小委員会報告

2010年岡山ユースミーツミーティング

広島大学 宇宙科学センター 川端弘治
(国立天文台 岡山／ハワイ 岩田生)



2010年度 岡山プログラム小委員会

木下大輔 National Central University, Taiwan (2007–2010)
西浦慎吾 東京学芸大学 (2007–2010)
山下卓也 国立天文台 (2007–2010)
川端弘治 広島大学 (2009–2012) --- 委員長 (2009–2010)
杉谷光司 名古屋市立大学 (2009–2012)
野上大作 京都大学 (2009–2012)
橋本修 県立ぐんま天文台 (2009–2012)
岩田生 国立天文台 (2009–2010) --- 幹事 (2009–2010)

※昨年度からは変更なし

※来年度、幹事と3名の委員が交代予定

この1年間の活動状況

- ・ 2009年10月06日 2010年前期プログラム・プロポーザル公募締切り
- ・ 2009年11月09日 プログラム小委員会、採択プログラム決定
場所・時間: ピュアリティまきび(岡山市) 9:00-16:00
参加者: 川端、木下、西浦、杉谷、野上、橋本、岩田 (EO 吉田、泉浦、柳澤)
- ・ 2010年04月13日 2009B期プログラム・プロポーザル公募締め切り
- ・ 2010年05月21日 プログラム小委員会、採択プログラム決定
場所・時間: 東京国際フォーラム 11:00-18:00
参加者: 川端、木下、西浦、山下、杉谷、野上、橋本、岩田 (EO 沖田、泉浦、柳澤)

2009年11月プログラム小委員会 主な議事

- ・ プロジェクト観測1件の審査
 - － PIのヒヤリングを行い、研究の進捗状況も審査対象とした
 - － 40夜の申請に対し、36夜の割り当てを認めた
- ・ 一般課題の審査
 - － 20課題中、13課題を採択
- ・ 学位支援プログラム
 - － ユーザーズミーティングで出た夜数上限の拡大を求める意見について議論。2010年後期の公募から上限を拡大することとし、実施要項の文面はそれまでに検討することにした。(最終的に半年あたり「1週間程度」から「10日前後まで」とした)
- ・ レフェリーの際のPI匿名制について
 - － 一通り意見交換を行った
 - － 次回のプロ小で意見をまとめ、ユーザーズミーティングに出すことにした
- ・ 課題申請受付方法の変更
 - － 原則電子メールのみとすることを了承した
- ・ レフェリーへの審査結果の開示について
 - － あるレフェリーから、各レフェリーのコメントだけでなく、採点も含めた審査結果を開示してはどうかという意見があったことについて議論。継続課題の評価に対する各レフェリーの独立性を保持を優先させるため、開示はせず、これまで通りとした。

2010年5月プログラム小委員会 主な議事

- ・ プロジェクト観測(継続課題)の審査
 - 40夜の申請に対し、38夜の割り当てを認めた
- ・ 一般課題の審査
 - 22課題中、11課題を採択
- ・ レフェリーの評価に関して
 - 不適切と考えられるレフェリーコメントも削除せずに申請者に返し、プロ小の判断を付記することにする
 - 応募の多い恒星分野ではボーダーライン付近に課題が集中し、審査に時間が掛かる傾向がある。レフェリーの配分の見直しが必要かもしれない。
- ・ 学位論文支援プログラムに関して
 - 2期続けて応募が無い。一方、一般課題への学生からの応募は引き続き多い。
 - これまで、博士論文としての応募はゼロ
 - このプログラムの目的と方向性について、ユーザーズミーティングで意見集約する
- ・ レフェリーの際のPI匿名制について
 - 前期のプロ小が行ったアンケートの集計結果では賛否両論
 - 論文数や学生の採択率などの統計では、導入する前と後で有意差は認められず
 - 議論の結果、**PI匿名制を継続することをプロ小の方針とすることとした**

採択率:PI匿名制前後での比較

	02B-06A		06B-10A	
PIの学年/職	採択率	申請数	採択率	申請数
M	0.78	18	0.71	38
D	0.58	31	0.67	27
PD	0.71	14	0.57	28
助教	0.80	5	0.86	7
准教授	0.68	25	0.48	23
教授	0.52	21	0.75	16
その他	0.67	3	0.57	7
全体	0.65	<u>117</u>	0.64	<u>146</u>

実績が少ない若手の採択率がPI匿名制により上がった、という傾向はみられない。⇒ 不利は受けていないorどちらにも作用しうる。

一方、匿名にすることで一定の公平性が担保されているはず。実績についてはプロ小で評価に含めれば良い。

レフェリー時のPI匿名制は継続する

ユーザーの意見を乞う

学位論文支援プログラム

- ・ 修士課程・博士課程の学生を対象 審査は一般枠と同様(面接無し)
- ・ 最大～10日×4期(2年間)と割り当てを拡大 →良い成果を期待
- ・ ユーザーズミーティングでの中間発表、成果発表が義務
- ・ 学生からの応募は2期連続無し(一方で一般枠への継続応募は依然多い)
- ・ これまでに2件採択 いずれも修士論文を目標としたもの
- ・ 優れた研究者の養成を目指すなら博士課程のみ対象にする案もあり得る

⇒ 位置づけ(目的)の微調整が必要か？ ニーズは？ 改善すべき点は？

高い競争倍率と割り当て夜数減、同一夜の重複割り当て

- ・ 夜数ベースの競争倍率は2倍(一般枠だけでみると2.5倍) なかなか厳しい
- ・ ボーダー付近は、希望夜数を削って、なるべく多くの課題を割り当てる傾向
- ・ 最近では、補充的な観測や、時期を限った、夜数が短めの課題の申請も多い
- ・ 観測ランが短いと、天候の関係でデータが全く取れないケースが目立つ
- ・ なるべく長い期間、複数課題を重複で割り当てるのが解決策として有効
- ・ ただし、晩ごとに観測時間を研究者間で協議してもらわないといけない

⇒ 採択課題数を減らして一課題当りの夜数を確保すべきか、それとも一課題当りの夜数を減らして採択課題を多くし、複数課題の重複割り当てを増やすべきか